

一九七二年!! こんな保育を



鈴鹿 美和子

一九七二年!! この年度は幼児教育界大改革のうわさもまだ具体化されないことと思えますので、園の先生方は、私も含めてこの一年、努力して日常の園生活内容を充実させてほしいとねがいます。どっしり腰を落ちつかせて!!

園長も主任もおられず、したい放題のことに実践してきて三年余、振り返ってみて、ひとりよがりのよしあしを反省しています。よいと思うこともたくさんありました。

新年度!よりよい幼児教育のために冒険してみたいと思われ先生方のためによかったと思うことをいくつか記してみます。園の組織が大きければ大きいほど、こういう勝手な冒険は許されないかもれません。また、小さければそれなりにさしきわりもありましようけれど、せっかく登園して来る幼児たちの

ためにあえて実行してほしいのです。隣は何をする人ぞ、と自信をもって保育計画に束縛されることなく、ただし教育効果を考慮の上で一日の保育をじょうずに流してゆければ理想です。

つまり、こどもたち一人一人の思いつきの発言などを大切にとり入れて、またはその日の気候状態によって、今日のせつ、かくの保育案などもまたのことにして新しい流れについてゆくようにしたいものです。でもこどもの力に流されればなしも困りますけれど。

こどもたちには入園時から考えて行動するようにし向けます。皆でお話を聞く時に静かにするよう制するよりも、今はどうしていたらいいかと聞きましょう。遊具の順がなかなかこないと困っていたら、どうしてなのか、どうしたら解決するか幼い頭

に考えさせましょう。物質も豊かで道具類も便利なこの時代、そういう根本的な苦勞をさせるべきだと思ふのです。そしてその上で教えるべきことは教えなければなりません。

たとえば、私どもの園は都心から離れておりますので、柿の木、どんぐりの木、桜の木など、それぞれにアメリカシロヒトリや、ふれるとかぶれるいろいろの毛虫がいます。この虫も、何かわけがあつてやはり私たちといっしょに住んでいるのでしようけれど、でも殺さなければなりません。純真なこともたちの前で、そういう残酷な行為をあえてしなければならぬことがたびたびあります。その時、ひとこと「土になあれ」と呪文みたいにとなえるのです。そして、この毛虫たちが栄養のある土になつてきれいなお花を咲かせるために働くことを聞かせます。花壇や畑の雑草とりもよくさせますけれど、抜かれた草たちは今度は畑の肥料になつてよい働きをすることを教えます。そうすれば、動物たちのふんの始末もきたないとはかり思わなくなりません。羊やうさぎのふんも「また大きな甘納豆をたくさんこぼしてー」などといい合ひながらお掃除に協力します。それから、せっかく育てたものを大切にしましょう。種のとれるものは、こどもたちの手で採集させて、またしかるべき季節にまくことも、楽しいことです。枯れて、カサカサ音のするようになったサルビアの、一つ一つの小さな合弁の花の底から

「三つもはいってたよ」「一つもはいっていない」とかいいながら、ごまより小さい種を集めるのはとても楽しいおしごとです。

時には、大きな勞作もさせるのです。

まだ寒さの残る三月はじめ、わら灰を作つてじゃが芋の切り口にまぶし、植えたじゃが芋を夏には掘り上げてすぐに洗えばとつてもきれいですよ。ゆでて皆で食べたり、さつまいもは苗を植えて育てるのだとか、里芋は皮のついたままのを植えるのだとか、楽しみはたくさんあるのです。里芋は、七夕さまのころには大きな葉の上に朝露をころたくさんのせて、短冊を書くためのすずりを満たしてくれませすしー。小さな花壇でも間に合ひましょう。

幼稚園のお庭にチューリップもいいのですけれど、ことしは思いきつて収穫の喜びを味わつてごらんになりませんか。じゃが芋にも、水仙のような花が咲いたり、かわいいものです。へちまも、毎年々々自園製の種でよく実がつかます。きれいなへちまにして、皆でお家を持って帰り、入浴の時、おとうさまやおかあさまの背中をこすつてあげるように話します。特別大きなへちまは充分熟させて、同じく水につけて、皮と種をとり、よく干して、野球のノットの代りにします。固くてよく打てま

すし、当たっても痛くはありません。

おへやも少し変えてみましょうか。室内遊具のおき場所も情性ではありませんか。たまにはおへやの真中においておくとか、ピアノの位置やカバーを取りかえるとか。

そうそうピアノで思いつきました。これだけはぜひお願いしたいことノ

リズム遊びの伴奏、またはうたの曲を弾かれる時、楽譜にたよらないこと、視線は子どもたちの方に向けられているべきです。それまでしっかり自分のものにしてから、子どもたちに与えてほしいものです。

まだまだ園では、何年も前から別にふしぎとも思わず、子どもたちにさせているいろいろなことがたくさんあります。ほとぼっぱ体操など大抵の園でなさるでしょう。そしてほとんどお行儀よく並んでするのはありませんか。このこと一つにしても打ち破ることでず。自由に好き勝手なところでさせたら、どんなに喜ぶでしょう。花壇の間のせまいところで、お花に気をつけながらフワフワちようちよみために体操するお子さんもあっていいでしょう。私もでは、三歳児から全部そうしています。お友だちにぶつからないように気をつけたり、今日はこのお姉さんといっしょにしよう、なんて年長組のお姉さんと並ん

で一生懸命とんでみたり。だからといって順に並ぶこともへたではありません。

考えて自分の前後のお友だちをみつけ、"歩き並び"なんてふしぎなこともしようです。先頭が歩き出すと順々にじょうずにきちんと一列なり、二列なりに並んで歩きます。「ほら、あなたはここですよ」などと決して教えません。でも大丈夫です。それには、はじめから前述のように自分で考えることもにしておくことです。

こういう教育がしてあれば、将来学生運動の中にはいった時を考えて分別ある人間らしい行動をするでしょう。幼い時からこうしなさいと決してふり回してはいけません。このことはよくよく保護者にも協力していただかなければなりません。勇気をもって実行なさってください。

ことはいろいろ動物を飼ってみませんか。

あひるたちを放し飼いにするのも楽しいものです。卵をじょうずに枯葉の下に十個ぐらいかくしてあったり、水鳥でも抱くとあたたかいからだをしていることを発見したり、小さい丸い耳の穴に水がはいらないかと心配したり、眼に透明の膜がさつとかぶさることや、驚きはたくさんあるのです。かかえては飛び立たせて、何回も練習しているうちに飛べないはずのあひ

るが飛べるようになって小屋を飛び越して出てしまったり、必ず集団で行動することや……。

私もでは過日羊を飼いました。ほんとうはろばが飼いたかったのですけれど、多摩動物園で、ろばは危険だから幼稚園で飼ってはいけないといわれて、聖書でも一番おとなしい動物といわれている羊を飼うことにしました。四月二十三日生まれで、幼稚園に来ましたのは九月上旬でした。動物の中で一番乳ばなれがおそいそうです。

赤い首輪をつけて鎖につながれて、鈴をたくさんチロチロさせながらこどもたちと走り回ったり、なれてからは放して勝手に草を探して食べさせています。おべんとうのため、一人残らずおへやにはいってしまったりすると、トコトコついてはいつて来ます。

名前を呼ぶとピョンピョン飛んで来たり、

毎朝パンの耳だのりんごの皮や芯を、誰かが少しずつ持って来て、手から食べさせます。

好ききらいがあつて、柿の葉が大好きでキャベツも喜んで食べますけれど、白菜はぜつたいに食べません。とげとげの痛いつる性の雑草を平気で食べたり、赤まんまの花や、つゆ草の花や、ねこじやらしの穂を、おいしそうに食べる、こどもたちが大きわぎで報告してきました。

はじめのうちは、一人ずつ羊にのせて鎖を引っぱると、静かに歩いてくれましたけれど、大きい組は放してある羊の背中にじょうずにとび乗り、首輪を持ってしがみつき、三十五、三十六と誰が一番長く乗っていたかを競い合ったり、いい遊び相手になってくれます

今年度動物を飼う決心をなさいましたら羊になさるようおすすめます。

春にはあのふわふわの毛を刈るのです。一匹で一着分の生地が織れるそうです。

どうぞぜひこどもたちに動物を飼わせてください。それも愛情に対して反応のあるものがいいのです。小さいものより大きいものの方が楽しめます。私も、許されるなら次には、きりんが飼いたいのですけど、無理そうです。

若い年代を代表して——とのご注文、ご立派な先生方をさしおいておこがましいことと重々思いながら、またまた筆が進むうちに、手前味噌のようなことを書きつらねてしまいました。

とにかくこの一年、何か新しいことをしてみましょ。大きい組織の中でしたら思慮深く行動を起こすことです!!
釈迦に説法でしたら、ごめんなさい!